

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393100272		
法人名	株式会社日本介護研究所		
事業所名	グループホームめぐらす小川 かなりあ		
所在地	愛知県安城市小川町新田山21番地11		
自己評価作成日	令和5年2月26日	評価結果市町村受理日	令和5年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyvoCd=2393100272-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5
訪問調査日	令和5年3月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様にご自身でできることはしっかり行なって頂くことで自立支援につなげている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設自体、2021年4月に開所されたところであり、若い職員が多く、支援方法の吸収力、アイデアの発信力が高く、且つ、施設ビジョンにある「チームで挑み、チームで成長」を自分たちの行動指針としている。常に一人ひとりに寄り添い、言葉をかけることで利用者が言葉や反応を返してくれ、法人理念の「よいめぐり」となっている。特にレクに力を入れており、季節の壁面装飾を職員がリードする形ではあるが、それに利用者がこたえ、見事な作品を作っている。また、ペットボトルキャップを利用し、数字や漢字の穴埋め競争をしたり、風船バレーやYouTubeも利用して体操することで体も頭も動かし、楽しみながらADLを落とさない支援に努めている。コロナ禍で地域との交流に制限があったが、徐々に緩和されてきたこともあり、次年度はボランティアの受け入れや、施設の行事を地域へ発信しながら交流を図っていくつもりであり、結果に期待される。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は「よいめぐりを世の中へ」で理念は職員も入居者様も家族様にも常に目につくところに掲示され、常に意識している	法人の理念のほかに独自の施設ビジョン「チームで挑みチームで成長」を定め、月に二回ある2フロア合同の施設会議の議事録に記載し、それを職員は再確認し、チームで利用者支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・地域密着型サービスである為、町内会長様との交流や、回覧板に施設の行事の内容を記載し、回して頂いている ・近くの弁当屋さんや挨拶し、施設内のイベントの際に活用させて頂いている ・ボランティアの方に来て頂き、交流している ・散歩の時等近所の方に出たら挨拶やお話をしている	町内会に加入し、回覧板自体は回ってはいませんが、その中身の地域情報や案内のチラシは町内会長がまとめて届けてくれ、施設として把握することができている。またこちらの情報を回覧板に入れ地域の人に発信している。近隣の人と挨拶を交わしたり、すぐ近くの弁当屋と懇意になり、施設内行事の時に仕出しを作ってもらっている。今後はコロナ禍で中止になっていたボランティア訪問も受け入れ再開予定。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・回覧板に施設がどういった所かを記載することで地域での施設の立ち位置を確立している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回開催されており、入居者様、家族様も参加できている ・会議自体には参加したことはないが、招かれた方々が自然体に入居者様を見てもらえるようにレクリエーションを行なって見せている ・施設の現状報告をし、アドバイスをもらっている	今年度は運営推進会議を6回、うちコロナ禍でやむを得ず書面開催になった時もあるが、三回を対面で開催することができ、利用者家族、市役所職員、包括職員、町内会長、副会長も参加した。施設内の様子を知ってもらおう機会として活用しており、日々のレクでやっていること取り組んでいることの報告はよろこばれた。ヒヤリハット事例を書面で知らせてほしいという要望もあり、次年度の課題である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・何かあったら職員が安城市とは密に連絡を取り合っている ・ボランティアの方や中高生のボランティア体験会(コロナで中止)受け入れを行なっている	安城市のグループホーム連絡会に参加し、他の施設の取り組み情報を得ている。また、市の担当者とは運営推進会議や認定更新書類のやりとりなどで関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束が必要かどうかやどうしたら身体拘束をしなくて済むかについて月1回施設会議内にて話し合っている ・入職時に身体拘束について研修を通して学んでいる ・「外の景色を見たい」と訴えがあった場合は見守りの元、玄関を開けている	入職時に身体拘束及び虐待について学んでいるが、身体拘束防止委員会を先頭に年に一度は追加で勉強会を開いている。車いすの安全ベルトなど、利用者の安全を考えたことには必ず家族の同意をとり、定期的に状態のモニタリングを行いながら解除にむけて努力している。同様に玄関は施錠しているが、利用者の求めに応じて開錠し職員と一緒に散歩に出たりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待防止に関する会議が1ヶ月に1回開催され、入居者様の状況話を話している ・高齢者虐待防止関連法について定期的に学ぶ機会がある ・会社で高齢者虐待防止推進プロジェクトが発足されており、系列の施設の職員が集まって(Zoom会議)自施設の事例等を共有し、施設内の会議にて職員に落とし込みを行なっている ・系列の施設の高齢者虐待に関する会議の議事録を閲覧している		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度については研修で学んでいる		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・管理者、相談員でなくても、入居時の手続きの仕方や家族様への対応の仕方について入社時に教育する時間を設けている ・誤った理解のないように必要に応じて何度でも説明している		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族様から意見、要望があった際は共有できる社内システムがあり、対策案も出しており、玄関に明示し、誰もがみれるようになっている ・入居者様、家族様から意見があった際には情報共有を必ず行なっている	家族が訪問してきたら必ず意見や要望を聞くようにしており、その情報は社内で共有している。家族から薬の増減についての説明が欲しいと要望があり、電話やショートメールなど、家族の希望する連絡手段で説明した。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・新入職員でも管理者でも立場は対等とし、誰もが意見を伝えることができる場を設けている ・定期的にアンケートがあり、そこで意見の発信ができており、どういった意見があったか等全社に公開されている ・1ヶ月に1回以上面談を実施し、想いを確認反映させている	定期的に1on1方式で個人面談を行っている。また母体の法人からも定期的に職場や環境についてアンケートがきて、職員はその要望や支援のありかたについて自由に伝えることができる。その意見は社内に公開されている。例えば、フロアや利用者居室の掃除において通常目につく箇所ではなく、気づきにくいヘッドボード上の棚やエアコン上などの掃除をしたいという意見をうけ、時間をみつけるようになった。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・半年に1回自分自身の努力、実績をプレゼンする機会があり、評価をもらい収入が上がったりしている ・誰でも意見し、意見を取り入れてもらえるようになっており、楽しく感じる		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新入職員には1人教育担当者(フラスター、シスター)が付き、1人1人手厚く教育している ・新入職員には1人で業務ができるか確認するシートがあり、印をつけることで見える化し、職員全員でフォローし立ち立てできるようにしている ・希望者には1対1で面談し、話をする時間を作っている ・資格取得の補助がある		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・系列施設と密に連絡を取り合い、交流会とし、レクリエーション等行なっている ・系列施設の職員と情報交換や日常行なっていることを共有できるSNSアプリを使用している ・資格取得を勧めている会社なので勉強会等はしやすい環境であると思う		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前より事前に本人様、家族様と面談し、本人様の特徴や癖等を共有している ・些細なことでも情報共有を行ない、入居者様を安心させるケアを行なっている ・本人様のお話を傾聴し、普段の生活と近い生活を送ってもらえるように努力している 	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭内での困りごと入居前から連絡を取り共有している ・ケアマネジャーが行なってくれ、それを職員に共有してくれている 	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にどのようにしたいか等は確認している ・ユニット会議にて共有するのは当たり前だが、都度困ったことがあった場合、すぐ全職員に共有し解決するように努めている 	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人様の「やりたい」を尊重し、掃除、洗濯物畳み等本人様ができることは行なってもらい、できないことをお手伝いさせていただくことを心がけている ・好きなものやよく行った場所等入居者様の普段していた生活の話聞き、職員自身の話を交えつつコミュニケーションを取っている ・会話する際は他の入居者様を巻き込むようにしている 	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・面会、外出の際に施設内での様子について(良いこと、悪いこと)包み隠さず伝えている ・家族様との情報交換を行なっており、互いに支える関係になっていると思う 	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため、面会時間、人数、外出場所には制限を設けているが、家族様、知人様が気軽に来訪できるように支援している ・会話の中に本人様がよく話される人や場所について話に混ぜながら懐かしむことをしている 	<p>コロナ禍での規制が徐々に解除されてきており、家族との面会、外食、帰宅であったり、なじみの美容院の利用などができるようになってきた。知人も訪問してくれ、玄関先やエントランスでベンチに座って談笑することもある。手紙のやりとりを続けている利用者や携帯電話で家族と連絡をとっている人もいる。</p>
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアでは会話を楽しめる席配置にしており、席替えをしたりし、交流がはかれるようにしている ・くつろげるようにフロアにソファを配置している ・フロアに集まりトランプ、ものづくり等のレクリエーションをすることで入居者様同士の関わりが持てるようにしている(無理強いはいはしない) 	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居になってしまわれた入居者様がどうなったかはあまり情報はないが、ケアマネジャーから情報があつた場合は共有してくれている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの話を傾聴、その方らしさを尊重し、希望に添えるように努力している ・アセスメントシートに必ず目を通し、ケアプランに沿ったケアを行っている	利用者に直接聞いたり、意志疎通が難しい人には表情、仕草、発語等から感じとつた事をホームのLINEWORKSで共有し思いや意向に近づけるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居される前にアセスメントシート等で入居者様について情報共有が行なわれている ・その方らしさを尊重している ・元農家の入居者様には花や野菜の育成に携わって頂いている ・女性の入居者様には洗濯物を畳んだりしてもらい、入居者様同士で協力し合い、その方らしさを大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・入居される前にアセスメントシート等で入居者様について情報共有が行なわれている ・その方らしさを尊重している ・健康状態の確認を常に行ない、いつもと違うことがあればその都度確認を取っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・1ヶ月に1回ユニット会議を開催し、困りごと等を共有し、どうしたら良いか話し合うことができている ・ユニット会議以外でも入居者様一人ひとりの普段の状態を共有、より良くするための提案を共有し向上できている	モニタリングは全員毎月行っている。担当者は日々のケアと介護記録やLINEWORKSで利用者の情報を集めたり、施設会議やユニット会議で出された職員の意見を集約し、プランに取り入れ半年毎に作成される。家族には作成後説明し何か要望等あればプランに反映される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録(カナミック)に些細なことでも記載、申し送りし、常に職員が見えるようになっており、また家族様にも見えるようになっている ・普段と違うこと、成功事例等職員同士で共有し、どの職員でも実践できるようになっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ユニット会議にて入居者様の支援について話しあっている ・グループホームでは対応できない状態になった場合(吸引が必要等)は系列施設への移動入居を勧めている		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・本人様のADLが落ちないようにできることはご自分で行って頂く環境になっている ・資源回収日を職員で共有し、入居者様にも協力してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・訪問診療にて医師に指示を仰ぎ、受診が必要ななら家族様に経緯を説明し、家族様が希望されれば外部の病院受診に行かれている	協力医と入居前のかかりつけ医両方の受診が可能で、かかりつけ医や専門医受診の際は家族に付き添いをお願いし、紹介状が出された場合はドクター間で連携されている。歯科については初回の検診の際に契約希望者であれば月二回訪問歯科を受けている。また口腔ケアも月二回行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師が不在の施設なので、系列の施設の看護職員に情報共有を行っており、何かあった際でも適切に指示を仰いでいる ・系列施設の看護職員に些細なこと、聞きたいことを確認している ・日頃より申し送りに関して系列施設の看護職員にも確認ができるようになっており、また訪問診療の時も伝え漏れがないように職員同士で共有できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	・病院の関係者とのやり取りを行なったことがないので分からない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・マニュアルはあります	看取りは行われず、入居時にホームの方針を説明し家族からは同意が得られている。段階ごとに話し合い医療行為が必要になった際は協力医から家族への説明が行われ、法人施設等への移行の支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・入職すると管理者やケアマネでなくても、緊急時対応をロールプレイする時間を設け、誰でも急変対応ができるようになっている ・救命講習等の訓練を定期的に行なっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・1年に2回災害訓練を行なっている ・どの職員でも対応できるように訓練している	年二回昼夜火事想定で避難訓練と通報訓練を実施している。町内の防災訓練への参加を受けているので、次年度からは参加を予定している。職員は避難経路を理解し避難方法を身に付けている。備蓄品として水、食料、紙類等備えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりに合った言葉がけや対応をしている 更衣やトイレの時には必ずカーテンや扉を閉めて対応している 居室鍵を掛けてほしいとの訴えが合った際には鍵を掛け本人様の希望に添うようにしている 	<p>接遇やプライバシー等について法人研修の他に管理者はミーティング時やケアのなかで気付いた際は口頭で指導している。利用者に対して基本同じ対応で接し深掘はするが利用者の尊厳を一番に考えたケアに努めている。トイレ誘導への声掛け、居室に入る際のノック等にも日々配慮ある対応に気を付けている。</p>
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> どうしたいのか選択を与えることで、Yes、Noで答えやすく、自己決定しやすいように配慮している 何かをやる時は本人様に確認を取ってから行なっている 飲み物や入浴時の衣類について選んでもらえるようにしている レクリエーションする時何がしたいか確認し、想いや希望に添えるように働きかけている 	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 入居者様の過ごしたいように1日を過ごして頂いている 基本的には入居者様フロアにて過ごしてもらっているが、個人の行動を制限はしていない レクリエーション時、拒否があれば参加促さず、過ごしたいように過ごしてもらっている 入浴の拒否があった場合は翌日に変更したり本人様の希望に添って支援している ゆっくりでも入居者様自身でできることは行なってもらっている どうしたいのか選択を与えることで、Yes、Noで答えやすく、自己決定しやすいように配慮している 	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 外出予定がなくても入居者様が他の人から見られても、また急に家族様が来られても問題がないように支援している 外出等の際、化粧ができる環境にあり身だしなみには気を付けている 入浴の時、洗髪した髪をドライヤーで乾かす際に分け目を確認し、その人らしい髪型にできるように配慮している 服が汚れていたり、崩れていたら更衣を行ない、清潔を保つようにしている 服を選ぶ際には本人様に確認してもらう 	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりにどのように食事を提供するのか食札があり、詳細記載されている とろみや刻みの対応の入居者様の食事でも見栄えを大切にし、視覚から食事を楽しめるように支援している 食事づくりにも入居者様に関わってもらい、楽しみながら支援している 食器洗い、食器拭きを入居者様と一緒にしている 	<p>食材は配達でメニューは決まっているが、ホームイベント時には止めて別メニューで対応している。また同じ材料でアレンジも行って調理している。出来る人には野菜の皮むき、キャベツの千切り、テーブル拭き、皿洗い等手伝って貰っている。普通食の他に刻みやとろみをつけるなど食べやすく提供している。</p>
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録(カナミック)に水分摂取量、食事摂取量について入力し、職員同士で確認している 水分摂取量少ない入居者様には決まった提供時間以外でも声掛けし、水分を提供している 入居者様によって食事量を変えたり、糖分の制限がある入居者様には都度対応している 食事量が少ない入居者様には栄養補助剤(エンシュア)を提供している 	

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎食後口腔ケアの誘導を行なっている ・定期的な訪問歯科が入っている(希望される入居者様のみ) 		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を決めてトイレ誘導を行ない、失禁を減らしている ・ケアプラン外でもトイレに行くかどうか本人様に尋ね、希望があればご自身で排泄できるように支援している ・排泄の記録を行ない、その人に合った排泄具(リハビリパン等)を選定している ・排泄の失敗が夜多い入居者様には夜間のみオムツ等対応を変えている 	排泄チェック表があり、利用者の排泄パターンを把握し日中はタイミングを見て定期的に声掛けて自立に向け支援している。自立の人も見守り等を行っている。夜間は尿量にあわせパッドからリハビリパン、夜間用オムツ等に変更している。自立の人は廊下のセンサーに寄り気付き見守りが出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・排便カウントを取っており、日数により腹部マッサージや服薬対応を行なっている ・水分量の把握、運動をするように働きかけを行なっている ・便秘の方には水分をたくさん取ってもらうようにしている 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の拒否のある入居者様でも楽しく入浴してもらえるように声かけから工夫したり、拒否があれば無理強いしないようにしている ・入浴中は世間話をしながら楽しんでもらっている ・入浴の曜日は決めているが、本人様の意思を尊重して入浴してもらっている 	入浴は基本週二回で入浴前にバイタルをチェックし確認している。希望温度でゆっくり職員と会話を楽しむ人もいる。自立の人には見守りしながら声掛けて手伝っている。拒否の人には声掛け工夫や職員を変える等で入浴に導いたり、また無理強いせず清拭、足浴に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日中傾眠している入居者様には都度声掛けし、居室でゆっくり休んでもらえるように声掛けしている ・その日の入居者様の体調に合わせて就寝介助の時間を変えている ・就寝後は2時間に1回巡視しており、安心して眠れるように支援できている 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬情のファイルがあり、すぐに確認できるようになっている ・入居者様の変化、様子を訪問診療時に医師に伝え、服薬の支援と状態変化の確認を行なっている ・職員全員に各居室担当を持ってもらい、入居者様がどんな薬を飲んでいるか把握している 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のレクリエーションに力を入れている ・月に1回は季節に合わせたイベントや誕生日会を開催し入居者様全員がフロアに集まって楽しめるようにしている ・テレビが好きな入居者様が多いので、できる限りテレビを観る時間を奪わないように努めている 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍なので、大人数での外出は行なえていないが、近所の公園に行ったり、入居者様の家族様が入居者様の外出に連れて行っている ・散歩に行きたいと希望されている入居者様に対し、職員が付ける体制をつくり、支援をしている ・コロナ禍のため、頻繁にはできていないが、なるべく本人様の希望を汲み取り外出を計画し、実施できるように努力している ・家族様と出かけられている入居者様もいるが、全入居者様できていると言えない 	コロナ禍で外出が出来なかったため、天気が良く暖かい日はホーム周辺の散歩と玄関先や駐車場に出してお茶を飲んでお喋りしたり、日光浴を楽しんでいる。家族の協力の下外食や自宅に出掛ける人もいる。今後は規制が解除されてきているので、様子を見ながらホームで外出する機会を増やしていきたいと検討している。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様、家族様の意向でお金を所持している場合もある ・盗難の問題があるため、お金は持ってもらわないようにしているが、どうしても持っていたい入居者様は少額持っている 		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入居者様、家族様の希望で携帯電話を所持している方もいる ・携帯電話を持っていない入居者様が伝言を伝えてほしいと希望があれば職員から連絡することもある ・入居者様にカードを渡し、クリスマスカードを書いてもらい支援しており、もらうだけでなく送る喜びも支援している ・手紙のやり取りは行なっている 		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常に環境整備を心がけ、「自分だったらどうか？」を考えながら掃除等行なっている ・日中、夜間の区別が付きやすいような工夫(カーテンの開け閉め)をしている ・フロアに季節を感じる飾り付けをしたり、中庭には花を置いたり等季節に合わせた工夫をしている ・トイレが汚れている時は気づいたらその都度清掃している 	<p>フロアやトイレは掃除が行き届き清潔に保たれている。リビングから見える中庭の花や野菜、またフロアの壁面に掲示されている制作物に寄って一年の四季が感じられている。テーブルも利用者の様子を見て落ち着けるように配置されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・フロアにて裁縫、読書、新聞を読まれたり、テレビを観たり、独りで好きなことをしている入居者様もいれば、入居者様同士で会話されている方もおり、ご自身が過ごしやすいように過ごされている ・過ごしやすいうちに席替えを定期的に行なっている ・会話に入りたそうにしている入居者様がいたら巻き込んで会話してもらっている 		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ面会があってもいように常に環境整備を行なっている ・居室にあるものはほとんどが本人様、家族様が持参されたものである ・家族様の写真や自宅で飾っていた物を居室に飾ってもらっている 	<p>居室の掃除は週二回担当職員に寄って行われるが、手伝える利用者にはモップ等やって貰っている。カーテン、布団は持ち込みで衣替えは家族にお願いしている。馴染みの机、椅子、姿見鏡等持ち込んだり、人形や家族写真を飾り其々に過ごし安い空間造りがされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できることはなるべく入居者様に行なってもらい、できないことを職員が手伝うよう支援している ・行動に不安がある入居者様にはどこかに行かれる際には声をかけている ・手すりがあり、入居者様自身がトイレに行けたり、洗面できたり工夫されている ・洗濯物量みや食器拭きを入居者様にできる限り行なって頂いている 		